

令和5年

第10回猪苗代町農業委員会定例総会会議録

令和5年9月20日開催

猪苗代町農業委員会

## 令和5年第10回猪苗代町農業委員会定例総会会議録

1. 日 時 令和5年9月20日（水） 午前9時30分

2. 場 所 猪苗代町役場 3階 正庁A

3. 出席者

農業委員

1番 渡 部 誠	2番 小檜山 浩 子	3番 大 月 喜 裕
4番 高 橋 二三雄	5番 鈴 木 範 政	6番 鈴 木 正 晃
7番 遠 藤 正 浩	8番 丸 山 之 子	9番 二 瓶 公 司
10番 浦 大 輔	11番 安 達 壽 人	12番 土 屋 勇 雄

農地利用最適化推進委員

18番 相 馬 裕 幸

4. 事務局 局長 長谷川 勲 農地係長 佐藤 すずい 主事 渡部 善和

(開議時間：午前9時30分)

○議長（土屋勇雄 会長）

それでは、ただ今から令和5年 第10回猪苗代町農業委員会定例総会を開会いたします。

本日の定例総会の招集につきましては、9月1日告示し、同日付で、農業委員及び関係する農地利用最適化推進委員に告知申し上げたところであります。

それでは、農業委員の出席状況を報告します。

在任委員数12名のうち、出席委員 12名、全員出席であります。

したがいまして、農業委員会等に関する法律第27条第3項の規定により、過半数以上の出席がありますので、本総会は成立いたしました。

次に、農地利用最適化推進委員の出席状況を報告します。

在任委員数12名のうち、招集告知を申し上げた委員は、1名であります。

出席委員 1名、全員出席であります。

委員の皆様に申し上げます。

各議案の審議の際、調査員としての報告、または、補足説明を求められた場合は、挙手のうえ発言をお願いします。

また、調査員でない委員の方であっても、審議の際の発言は可能でありますので、その際は挙手をお願いします。

なお、推進委員の皆様には表決権がございませんので、採決には参加できません。あらかじめご了承ください。

次に、猪苗代町農業委員会総会 会議規則第18条により、議事録署名委員を、2名指名したいと思います。議長において、指名することに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認め、

3 番 大 月 喜 裕 委員

8 番 丸 山 之 子 委員

の2名を指名いたします。

次に、審議の方法について、お諮りいたします。本日の提出議案については、議案ごとに一括して上程し、逐次審議することとし、採決は挙手による方法といたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。

本日の提出議案は、

議案第38号 農用地利用集積計画の決定について

議案第39号 荒廃農地に係る農地・非農地の判断について

以上、2件であります。

○議長（土屋勇雄 会長）

それでは始めに議案第38号「農用地利用集積計画の決定について」を議題といたします。  
事務局の説明を求めます。

○事務局（佐藤係長）

議案第38号「農用地利用集積計画の決定について」説明いたします。

この議案は、猪苗代町長から農業委員会の決定を求められたので審議をお願いするものであります。

2頁をご覧ください。

農地中間管理事業の公社売渡し分であります。

No.1の譲受人は ○○の○○ ○○で 大字○○字○○105番 外2筆 田 25,481㎡を  
10a 当たり 607,848 円で、公社が売り渡すものであります。

次に3頁をご覧ください。

農地中間管理事業の機構借入れ分であります。

No.1は、〇〇の〇〇 〇〇が、田 3筆 11,140 m<sup>2</sup>を

No.2は、同じく〇〇の〇〇 〇〇が、田 1筆 2,300 m<sup>2</sup>を

それぞれ、期間11年 10a当たり13,000円で、〇〇の株式会社 〇〇〇〇  
代表取締役 〇〇 〇〇に

No.3は、〇〇の〇〇 〇〇が、田 11筆 14,077 m<sup>2</sup>を 期間11年 10a当たり12,000  
円で、〇〇の 農事組合法人 〇〇〇〇 代表理事 〇〇 〇〇に

No.4は、〇〇の〇〇 〇〇が、畑 1筆 1,365 m<sup>2</sup>を、期間6年 10a当たり15,000円で、  
〇〇の有限会社 〇〇〇〇 代表取締役 〇〇 〇〇に

それぞれ、福島県農業振興公社が借受け、借受者に貸付けるものであります。

次に、5頁・6頁は これと同じ内容の機構貸付分であり、議案書記載のとおりであります。

なお、この案件につきましては、申請者の申請に基づき、町が作成した「農用地利用集積計画書」に基づき、公社売渡しの所有権移転案件については、担当地区の農業委員及び推進委員の方に、農用地利用調整会議への立会いをお願いし、提案しております。

以上であります。

○議長（土屋勇雄 会長）

事務局の説明が終わりましたので審議を行います。

意見、討論、質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

ないようですので、採決を行います。

議案第38号について、原案のとおり決するに賛成の農業委員の挙手を求めます。

挙手全員であります。

よって、議案第38号については、原案のとおり可決されました。

○議長（土屋勇雄 会長）

それでは次に、議案第39号「荒廃農地に係る農地・非農地の判断について」を議題と

いたします。

事務局の説明を求めます。

○事務局（佐藤 農地係長）

議案第39号「荒廃農地に係る農地・非農地の判断について」ご説明いたします。

この案件は、農地法第2条第1項の「農地」に該当するか否か、猪苗代町長から農業委員会の決定を求められたので、審議をお願いするものであります。

8頁をご覧ください。

本案件の対象地は、No.1の字〇〇4326番からNo.24の大字〇〇字〇〇乙378番まで、計24筆 7,772.91㎡で、内訳としては田 8筆 2,413㎡ 及び畑 16筆 5,359.91㎡について、所有者本人から非農地通知書の交付申出のあった土地であり、8月に行った農地パトロールにおいて現地調査を実施し、この結果をもとに調査に当たった委員全員の意見として、荒廃区分が「B分類」の山林・原野化した「復元不可能」な土地と判断し、提案するものであります。

なお、この案件は、平成20年4月15日付け農林水産省経営局長通知「耕作放棄地に係る農地法第2条第1項の農地に該当するか否かの判断基準について」に基づき判断し、提案しております。

また、農地法第2条第1項で、農地とは「耕作の目的に供される土地及び採草放牧地」と規定しておりますので、この「農地」に該当するか否かについて、審議をお願いするものであります。

以上であります。

○議長（土屋勇雄 会長）

事務局の説明にあったとおり、8月に行った農地パトロールにおいて、それぞれ担当地区の委員が現地確認をしておりますので、調査報告は行いません。

審議を行いますが、議案第39号のNo.18からNo.24は、〇〇番 〇〇 〇〇 農業委員が議事参与の制限に該当しますので、それらを除いた案件を先に審議したいと思います。

意見、討論、質疑ございませんか。

○4番（高橋二三雄 農業委員）

先月、私が現地調査に立ち会って議案に上がった現況確認証明願いと、今回の荒廃農地に係る農地・非農地の判断については、結果として同じ内容かと思われませんが、両者の違いはあるのか、議案提出の方法の違いについて、お尋ねします。

○事務局（佐藤 農地係長）

ただ今のご質問について、お答えいたします。

先月、議案に上がった現況確認証明願いの案件と、今回の荒廃農地に係る農地・非農地の判断についての違いのご質問ですが、現況確認証明願いは、所有者自身もしくは行政書士等に

依頼する事により、申請から地目変更登記までを一連の手続きとして、一括して行うものであり、地目変更登記等を急ぐ場合などに申請される手続きです。

また、今回の農地・非農地の判断については、所有者から農地に復元不可能な状態のため、現地調査により非農地の判断をして欲しい旨の申出のあった土地について、随時申請のあった案件をまとめて、農地パトロールの実施時期に合わせて現地調査を行ない、調査に当たった農業委員・推進委員の方に判断していただくものであり、今後地目変更登記の手続きを、所有者自身で行っていただくことになります。

○4番（高橋二三雄 農業委員）

という事は、法律的な手順としては、同じ経過をたどると認識してよろしいですか。

○事務局（佐藤 農地係長）

はい、今回の議決により非農地と判断された場合は、農業委員会より「非農地判断通知書」を所有者本人に送付し、地目変更登記を要請することになります。

この地目変更登記には、農業委員会による現況確認証明書の添付が必要になるため、改めて所有者本人より現況確認証明申請書を提出していただき、農業委員会では既に非農地判断済の農地ですので、会長名で非農地の証明をお出しすることにより、地目変更登記を行っていただくことになります。

○4番（高橋二三雄 農業委員）

そうしますと、進捗的に一步手前の作業ではあるが、結果としては同じ経過をたどると認識して良い訳ですね。

○事務局（佐藤 農地係長）

はい、そうなります。

○4番（高橋二三雄 農業委員）

そこには、憂慮すべき問題があると私は認識しているのですが、農地の判断として非農地しか選択肢がないとすれば、昨今の少子・高齢化問題や限界集落に見られるように、農地についてもいろいろと議論されていると思います。

日常的な鳥獣被害等がある中で、私たち人間が人として生活していくうえでの、安全がなかなか確保し難い状況がどんどん進行してしまっています。そういう状況下で、猪苗代町として或いは農業委員会として、何か対策的な選択肢がないのか、発展的な方向性を示すことが出来ないのかと考えます。

皆んながどんどん年を取っていく訳で、農地を放置するしかない状況が前提にあると、どんどん歯止めが掛からなくなってしまう。

どこかで頑張ろうという選択肢がないと、私は自分が農業委員として情けないと思うのですがどうでしょうか。

○議長（土屋勇雄 会長）

今までも、非農地判断の問題については、いろいろと議論がありました。まず、農業委員会

の基本としては非農地ではなく、農地として誰か使ってもらえませんかと言うのが基本であり高橋委員が言われるとおり、農地を農地として誰かに作っていただくのが基本で、林野化しないように守っていくと言うのが、農業委員会の仕事であります。

ただ、現状として、本人からの申請があって、農業委員等が現地を確認したうえで、これではもう農地には戻せないよね、と判断するしかない状況については、認めざるを得ないというのが現実だと思います。

ただ、全部が全部それで良いのかと問われれば、問題があると思います。国の政策としても、林野と隣接する部分については、緩衝地帯として農地であっても、鳥獣が入って来ないようなゾーンとして保全していく等の方針が示されています。

本当に守るべき農地を農地として守っていく、その農地の対象を国でも絞ってきています。

全ての農地を農地として守って行くと言うのは理想であり、農業委員会の使命であると思いますが、現実問題として、そこは難しいと思います。

○4番（高橋二三雄 農業委員）

それは分かりますが、頑張りようがないからどんどん非農地にしていくと言うだけでは、農業委員会として或いは猪苗代町として果たしてそれでいいのか、そういう考えでこれからも行くと言うのであれば、とても気持ちとしては楽でいいと思いますが、果たしてそれで良いのかと心配してしまいます。

○議長（土屋勇雄 会長）

現状としては、優良農地をいかにして守って行くかが大きな部分で、既に林野化してしまっている農地も、全て農地として守って行くのかについては、難しい部分が有ると思います。

まずは、優良農地を荒廃しないように守り続けていける手立てを捜すのが前提であり、そこに皆さんのお力を注いでいただければと思います。

○4番（高橋二三雄 農業委員）

はい、わかりました。ありがとうございます。

○議長（土屋勇雄 会長）

その他、意見、討論、質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

ないようですので、採決を行います。

議案第39号のNo.18からNo.24以外の案件について、原案のとおり決するに賛成の農業委員の挙手を求めます。

挙手全員であります。

よって、議案第39号のNo.18からNo.24以外の案件については、原案のとおり可決されました。

○議長（土屋勇雄 会長）

それでは、議案第39号のNo.18からNo.24を審議しますので、〇〇番 〇〇 〇〇 農業委員の退席を求めます。

（〇〇〇〇 農業委員 退席）

それでは、審議を行います。  
意見、討論、質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

ないようですので、採決を行います。  
議案第39号のNo.18からNo.24について、原案のとおり決するに賛成の農業委員の挙手を求めます。

挙手全員であります。  
よって、議案第39号のNo.18からNo.24については、原案のとおり可決されました。

○議長（土屋勇雄 会長）

〇〇番 〇〇 〇〇 農業委員の出席を求めます。

（〇〇〇〇 農業委員 出席）

〇〇番 〇〇 〇〇 農業委員に報告します。  
議案第39号のNo.18からNo.24については、原案のとおり可決されました。

○議長（土屋勇雄 会長）

以上で、本総会に付議されました案件は、すべて終了いたしました。

○議長（土屋勇雄 会長）

それでは、これをもちまして、令和5年 第10回猪苗代町農業委員会定例総会を閉会いたします。  
ご協力ありがとうございました。

（閉会時間：午前9時53分）



本委員会定例総会の内容を記録し、相違ないことを証明するため議長及び議事録署名人はここに署名する。

令和 5年 9月20日

議 長 (会 長)

署 名 人

署 名 人